

グループヒアリング実施概要について

1. 出産を控える妊婦とその配偶者に対するヒアリング

(1) 対象者

出産を控える妊婦 3 名、配偶者 2 名

(2) 実施日時

平成 31 年 2 月 21 日（木） 12 時 20 分から 12 時 50 分まで

(3) 実施場所

健康プラザかつしか

(4) 内容

出産を控えての悩みや、不安に感じていることについて、区への要望等

(5) ご意見等

【出産を控えて不安に思うこと】

- 里帰り出産予定のため、出産に対して要望や不安はあまりないが、戻ってきてからの方が不安である。例えば、生まれて何日以内に提出しなければいけない書類など自分で調べないと分からないので教えてほしい。保育園についても、入れるのか、何歳から入れようかなどの不安がある。
- まとまった休みや決まった曜日の休みがなく、妻も同様であるため、二人の休みが合わないことが不安である。
- 仕事の復帰について、復帰時期などがイメージできない。保育園の申込みについてもよくわからない。産むことまでしか想像できず、産んだ後のことを何も考えていない。
- 家事などは普段からフォローしているが、妻が出産後に精神的に不安定になった時にどうしたらよいかわからない。育児はフォローできても、精神的なフォローがうまくできるか不安である。
- 住民税等を直接払う時に今後どのように払えばいいかなどが不安である。そういったことを、母子手帳を受け取る時に教えてくれたらよいと思う。また、買い物などの時にどのような施設におむつ交換などの設備があるか分かるとよい。

【手続きに関すること】

- 順番や流れが分かりやすいように、時期に応じた手続きや提出物の一覧があるとよい。
- 母子手帳をもらう時に区職員からいろいろ説明を受けたが、その時に手続きの一覧があると分かりやすいと思う。

【保育に関すること】

- 5月出産予定だが、保育園は4月開始なので、9か月くらいで入れるのだろうか。待たないといけないのだろうか。こういった不安なども、保育園に聞くべきなのか、区に聞くべきなのか、誰に聞いたらよいかもわからない。
- 出産前の方が時間に余裕があり、出産直前は産休で仕事もしてないのでその間に考えられることもあるため、保育園に申し込む際の点数表などについて、母子手帳をもらう時に案内があった方がよいと思う。
- 保育園の見学等をいつから初めてよいかなどについて、出産前から分かると仕事復帰のイメージができてよい。

【その他】

- まだ保育園に入っておらず、地域のつながりもないので、パパ友になれるきっかけがあればよいと思う。

2. 助産師に対するヒアリング

(1) 対象者

助産師3名

(2) 実施日時

平成31年2月21日(木) 12時50分から13時25分まで

(3) 実施場所

健康プラザかつしか

(4) 内容

日頃接している妊婦が抱えている出産に対する悩みや不安、区への要望等

(5) ご意見等

【妊婦の抱えている課題や不安について】

(育児に係る情報取得・相談先)

- 困った時に相談する人が身近にいないのか、インターネットで正しくない知識を仕入れ、その情報が自分に当てはまらず悩んでいる。身内を含め相談する人がいないのではないかと感じる。
- 悩んでいる自覚もないとも感じている。サポートする人がいないという状況を問題に思っていないため、出産後に困ってしまう状況に陥っている。
- 妊娠中はインターネットの情報を自分のことに当てはめられるが、子どもはそうはいかないため、ネットの情報に溺れてしまっている人が多い。何を信じ、選択してよいのかわからない。そのような状況に陥っているということが、赤ちゃん訪問した時に発覚する。
- 保健センターに電話をかけるなど、自らアクションを起こせるのならまだいいが、そうでない人が多い。
- そもそも妊婦が保健センターの役割を理解しておらず、妊娠・出産の際に保健師が相談相手になってくれることを知らない。また、保健センターが身近な場所であり、自分を担当する保健師がいるということ自体を知らない。保健師の役割も理解しておらず、保健センターに行けば何とかできるという発想がない。母子手帳の交付の時に面談をするが、それきりになっている状況がある。
- 相談窓口の電話もあるが、大きな問題がある場合に相談するという認識であり、身近なものとなっていない。

(出産・育児に対する意識)

- 今の妊婦は必要物を用意するのが遅いと感じる。便利になっているのが災いして、悠長

に構えてしまっているのではないか。昔は母や祖母が教えてくれたが今は近くにいないため、自分で早めに用意すべきなどの当たり前なことが分からない。

- お産に対しても同様であり、自分で産んで育てるという意識が低いと感じる。準備や体づくりなどお産や育児に対するイメージがなく、問題意識が低い。母親学級を受けない人もいる。自分事だという認識が必要である。
- 母親がそのような状況のため、ワンクッションある父親はさらに他人事である。父親は実際の大変なところはあまり目にしないため、母親とすれ違いが生じる。
- 出産で疲れた体に、分からない育児でさらにワンオペとなると母親が精神を病まない方がおかしいと思う。責任が大きいのしかかる一方で、近くに頼れる人がいないことから、今の母親はマニュアル・答えを欲しがるとの傾向にある。
- 特殊な例であるが、出産したら喫煙や飲酒をしてもよいと考える妊婦もあり、そういう部分の認識・教育もまだ根付いていないと感じる。また、ベビーベッドの柵をしないで赤ちゃんが転落するなど、産後の生活における危険性を伝えることができていない。病院の退院後指導を助産師や看護師が行うが、事故予防について重点を置いていない。退院後の赤ちゃんとの生活、事故予防について、妊娠期から広めていく必要がある。
- 昔は育児に関わる人がたくさんいて見守ることができたが、今は注意してくれる人もいないため、予防ができない。生まれてからでは遅く、妊娠期からの教育がとても重要である。

(祖父母に対する意識付け)

- 祖父母世代も実際どのようにサポートしていいかわからない現状がある。母親世代とのギャップが大きすぎるため、祖父母に対する今の育児の意識づけも必要だと思う。
- 「1か月検診が終わったら外出してもよい」など、昔とは育児が違うということを祖父母世代にも理解してほしい。

【自治体への希望】

(子育て支援センター、子育てひろばなどの施設の周知・PR)

- どこに外出してよいかわからない人も多く、児童館や子育てひろばが身近な存在になっていない。子育てひろばなど施設は増えているが、場所や利用方法が理解されていない。イベント情報等も含め、より一層のPRが必要と考える。
- 子育て支援センターで行っている妊婦向けのイベントを増やすことで、妊婦への周知が広がるのではないかとと思われる。

(区の HP やアプリでの情報提供)

- 葛飾区の HP が分かりづらく、いつも望む情報にたどりつくことができないため、「子育て」というくくりでまとめてほしい。葛飾区総合アプリ「ココシル」も使いづらい。若い人なら使えるかもしれないが、誰でも使えないと意味がないため、誰もが簡単に調べられるようにしてほしい。

(産後1か月検診への補助)

- 他の助産師から、産後の1か月検診の補助が必要との意見があった。母親が病院で受ける産後の検診であり、子どもの検診は行くが、母親の検診は費用がかかるため行かない人がいるようである。

3. 発達に課題のある子どもの保護者に対するヒアリング

(1) 対象者

児童発達支援施設を利用している保護者 10 名

(2) 実施日時

平成 31 年 3 月 1 日（金） 12 時 35 分から 13 時 40 分まで

(3) 実施場所

葛飾幼児グループ

(4) 内容

教育・保育施設の利用状況（通園の有無、利用頻度）及び地域子ども・子育て支援事業の利用希望（子育てひろば、一時保育）、利用の有無や利用してみたの感想、要望等

(5) ご意見等

【保育園、幼稚園等への通園の有無及び利用頻度、保育園や幼稚園等に通って子どもが苦労すること及び親が苦労すること】

- 幼稚園に週 4 日通っている。年少の時は行きたがらず、毎日泣いて大変だった。幼稚園の課題の指示が通らず、家でもやってほしいと言われて困ったが、どうやって教えたらいいのかを考え、簡単な言葉で短く伝えるようにしてやってみた。最近はあまり困ることがなくなってきた。
- 幼稚園に週 4 日通っている。あまり苦労はなかったが、年少の頃は行きたがらなく大変だった。朝の準備、帰りの準備が遅いと幼稚園から指摘されたこともある。
- 幼稚園に週 4 日通っている。年少の頃は言葉が出なかったため、先生や友達とコミュニケーションが取れず困った。年少の終わりから言葉が出てくるようになり、年中になって意思の疎通ができるようになってからは、問題なくコミュニケーションが取れている。行きたがらないことはないが、先生に伝わらなかった出来事を子どもが家で話すこともあった。
- 保育園に週 4 日通っている。いまだに朝は行きたがらず、帰りは帰りたがらない。気持ちの切り替えに時間がかかるが、一人になる時間を設けると、自分で考え切り替えることができる。そのことに家で気付いたため、保育園の先生にもそのように対応してほしい旨を伝えている。
- 保育園に週 4 日通っている。2 歳で入園したが、その前は祖母に預かってもらっていたため、最初の 1 年は送り出しで泣き、1 か月給食を食べず呼び出しがあったこともあった。年少から年中にかけて周りはおしゃべりが始まるが、息子はおしゃべりなどの理解が遅くて、友達づくりに躓いてしまった。先生に相談するとともに、休日などに友達づくりの機会を増やしてあげなければいけないと考え、対応した。切り替えがうまくないが、

葛飾幼児グループで鍛えられて、今は精神が強くなったと思う。私自身も子どもとの離れ方が分からなかったが、子どもとの距離の取り方を周りのママや先生に教えてもらった。

- 幼稚園に週5日通っている。入園当初は、手が出たりかみついたりするなどして、友達とうまく付き合えなくて大変だった。手先が不器用で幼稚園の制作物ができず、先生が一人付きっきりで手伝っていたこともあった。制服も一人では着られず登園の準備が大変だったが、今は一人でできるようになっている。
- 幼稚園に週4日通っている。入園当初から、ある友達にいつも突き飛ばされていて、それがきっかけで幼稚園に行きたがらなくなった。それでも行かせるようにし、幼稚園とも話し合いを続けたがおさまらなかつたため、転園するよう園から依頼された。しかし、本人が嫌だと言ったため、相手に先生を一人つけてもらうことで収まった。そのあたりから息子本人も覚悟が出来たのか「やめて」と言えるようになり、秋口ぐらいから普通に通えるようになった。
- 保育園に週4日、葛飾幼児グループに週1日通っている。1歳から保育園に通っているが、食べたくないものは食べず、それが保育園でも許されていたため、おやつを食べずに帰ってくることもあった。言葉が出るのも遅かった。2歳の時に兄のいる保育園に転園した。離れる時に泣いてもお兄ちゃんのいる教室に行って助けてもらっていた。今年、兄が卒園したため保育園に行くのが嫌になって、毎朝行きたがらなくなっている。滑舌が悪いため、先生や友達とのコミュニケーションが難しい状態であり、本人も伝わらないと諦めている。
- 幼稚園に週4日通っている。始めの3か月くらいは幼稚園に行きたがらなかつた。1～2か月前からまた行きたがらなくなり、毎日「おなかが痛い」と言うようになった。毎日言うので大きい病院を受診したところ便秘という診断であったが、精神的な理由かもしれないため、来週病院を受診する予定である。幼稚園に行ってしまうと楽しんでいるようである。着ていた服を全部脱いだり、押し入れにかくれたりしているようだ。幼稚園も葛飾幼児グループも同じように嫌がるが、来てしまえば大丈夫である。

【幼稚園・保育園の先生とのコミュニケーション】

- 保育参観の際に面談したり、送迎時に担任の先生と話したりしている。療育でのアドバイスがあったら教えてほしいと言われており、そういった話をしたり、相談をしたりしている。
- 送迎時に先生と話す機会がある。また、言葉が遅かったことから幼稚園での出来事が見えにくかつたため、定期的に知らせてもらうよう依頼していた。先生とコミュニケーション

ョンがとれない時は先生から電話がきたり、子どもの様子がおかしい時は先生に時間をとってもらったり、面談の時に相談したりしていた。先生に子どもの特性を理解してもらえなかったのが苦労したが、関わりを持ってもらえるようにしていた。療育の先生の接し方を園でもしてもらえよう、お願いなどもしていた。

【子育てひろばや一時保育の利用の有無、利用してみたの感想、利用したことがない場合はその理由と今後どう改善されたら利用してみたいか】

- 一時保育は、登録に行かなければいけないのが大変である。一時保育は急に必要となるが、事前の面談や1～2時間の預ける練習が必要と言われ、預けたいと思っても急に預けることができないため不便さを感じた。
- 利用している施設は4時間、6時間、8時間の中から利用時間を選べるが、1～2時間でも利用できるようになるとありがたい。また、イレギュラーな用事で基本時間(9時～17時)の前後も預けなければならない時があるが、実家が遠いため亀有にある24時間の一時保育に預けなければならないため、もう少し融通が利くとありがたい。短時間でも長時間でも使いやすい形態になるとよい。
- 施設により予約方法が違う点が不便である。最初に利用していた施設は、利用する1か月前に毎回電話予約をしなければならなかったが、現在利用している施設は月2回の電話で半月分をまとめて予約ができる。予約の手間がかかることから、登録料はかかるが予約が楽な方に変えることにした経緯がある。
- 子育てひろばという名前だけでは、保育園に通っていない人は何かわからず、行っているものなのかもわからない。広報などで周知してもらえるとよい。
- 児童館は利用したことがあるが、おもちゃの取り合いが始まると大変だった。子どもが大きくなり、今は利用していない。

【小学校入学に向けて不安な点】

- 小学校1年生の兄と比べると、同じことをできるか不安である。椅子に座っていること自体が難しく、黒板を見てノートを写すことができるのか、先生の言っていることを理解できるのか、1対1ではない状況に対応できるのかなどに加え、そもそも通うことができるかという根本的な問題も含め、全てが不安である。年長時にある就学相談で相談したいと思っている。
- いじめが不安である。登校拒否等、二次障害が一番怖いと思っている。登校拒否を体験しても、社会に復帰できる人と精神病になってしまう人がいるが、どうやったら復帰できる人になり、どうやったら精神を病んでしまうのか、そのあたりが不安である。

- 放課後の過ごし方について、自分で調べなければ情報がなく、不安である。
- 障害はないが発達の数値が低いため、小学校入学後は普通級で支援を受けることとなるが、放課後は放課後等デイサービスに入れるのか、もしくは学童に入れるのか、不安である。放課後等デイサービスについて、チラシや広報等でより周知してもらえると、探さなくても情報を入手することができるため、不安が一つ軽減されると考える。

【その他】

- ママ友と子どもを連れて会う時に、子どもを自由に遊ばせられる場所がない。ランチができ、キッズルームで遊ばせられるような大きい施設がないと感じている。葛飾区の児童館についてはよくわからないため、情報が欲しい。公園以外に、気軽に行ける施設があるとよい。

4. 虐待等の相談を受けている専門支援者等に対するヒアリング

(1) 対象者

児童虐待防止に関する専門支援者4名

(2) 実施日時

平成31年3月8日(金) 14時から15時まで

(3) 実施場所

健康プラザかつしか

(4) 内容

地域子ども・子育て支援事業(ショートステイ事業、養育支援訪問事業)についての課題(その理由・根拠)及び提供方策(必要とする保護者の手元へ届くための方策)として必要な区の実施、区への要望等

(5) ご意見等

【事業の現状について】

(養育支援訪問事業)

- 複数の区にて事業を担当しているが、区によって仕様が全て違う。葛飾区においては産後うつから一時保護から返ってくるきっかけとして養育支援訪問事業を利用するまで、利用者のレベルは様々である。
- 葛飾区の養育支援の報告書はサインをするだけだが、他の区はヘルパーやコーディネーターまで細かな記載を求められるところもある。葛飾区の方法は伝えたい必要な情報が完全には伝わらず、やりやすいとは言えない。
- 国の方針に則って「指導」を重視すると家庭に拒否されることが多いが、「支援」のサービスとするほうが、家庭と良好な関係を構築できていると感じている。特に、学習支援であったり、食の支援の名目であったりすると家庭に入りやすい。

(ショートステイ事業)

- 4年前は1年間に100弱の利用であったが、昨年からはレスパイトでの利用が急増している。レスパイトでの利用は4泊/月の制限をかけているが、目一杯使う人が多い。
- 利用者の8~9割がレスパイト(休息、息抜き)であり、そのほとんどが生活保護、ひとり親世帯である。リピーターが多く、毎月必ず使っている家庭もある。また、祝日・日曜の利用が増えている。
- 2歳~15歳まで預かり可能であり、小学校低学年くらいの預かりが多い。しかし、居室が2室のみであり、3ヶ月に1回は定員になることがある。
- 発達障害やコミュニケーションに障害を持つ子がおり、配慮しなければいけない子の利

用も増えている。

- 食事に配慮しなければいけない子の利用については、お弁当を注文している。なお、子どもだけがお弁当を食べるのではなく、職員も一緒にお弁当を食べるといった配慮をしている。
- 利用が増えたきっかけは分からないが、葛飾区は200円の負担でタクシーを利用して送迎が出来るので、負担は少ないのではないかと考えている。
- 利用はないが、宗教的に食事の配慮をお願いしたいという相談があった。
- 要支援ショートステイが緊急一時保護の代替で利用されているが、職員の負担は多い。

(ホームスタート事業)

- 本人の気持ちを尊重するために、本人が申し込むのが原則であり、親の孤立を避けることが目的である。
- ボランティアになる人には8日間の研修を行っている。コミュニケーション向上を図る研修も実施しており、利用者との良好な関係性構築を目指している。
- 親が孤立し、なかなか自分で物事を発信しないことが課題である。

【事業の課題について】

(養育支援訪問事業)

- 家庭への介入に際しては利用者と直接連絡取れるのでやりやすいと感じている。
- 遠方から葛飾区に支援に訪れることもあり、交通費の負担が重いのが課題である。

(ショートステイ事業)

- 職員の確保が課題である。児童養護に興味を抱いている学生にアルバイトに入ってもらっている。また、実習生にも入ってもらっている。

(ホームスタート事業)

- ボランティアを集めるのが大変である。
- 無料であり、短期間の支援のため、ニーズ量が多い。職員の確保の問題もあるので、あまりに大量に受けられない現状がある。

【手元へ届くための方策・期待する取組】

(ホームスタート事業)

- チラシをおいているだけではなかなか集まらず、区報に掲載されると効果がある。

- 区の補助事業として、区の名前が入っていることは事業の信頼性が向上する。

（養育支援訪問事業）

- 家庭によっては連絡がつかない、拒否されるということが多くある。
- 食の支援が介入のきっかけとしてよい切り口であると考え。なお、他の区で行っている食の支援は訪問型・宅配型を選択でき、宅配型の方が抵抗感を感じる事が少ないようである。
- ヘルパーは区の委託で行っているにも関わらず、受け入れが良いことがある。区との役割分担をしっかりと行い、指導役ではなく支援役であることを明確にすることがよいと考える。

（ショートステイ事業）

- 区報がきっかけの利用もあるが、ご自身で調べてくることも多い。
- 子育て相談を区が受けると、ショートステイに繋げることもある。

【その他】

- 事業者は区の支援に繋げることが役割であるが、地域のネットワークでどのように繋がっていきけるか、地域団体同士のネットワークができるとうい。
- 他の事業者をどれくらい伝えたらよいか分からない。
- 運営管理費がかかるので、もう少し補助金をいただけると良い。